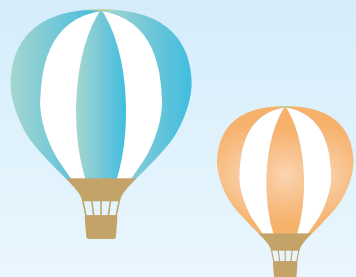




株式会社サークルKサンクス 社会環境報告書 2016



経営理念・経営ビジョン・行動指針

サークルKサンクス
社会環境報告書 2016

1

経営理念

わたしたちは、
社会に信頼され、
成長し続ける企業をめざします。

サークルKサンクスでは、経営理念のもと、安全・安心で高品質なおいしい商品をご提供し、社会貢献活動や環境保全活動にも誠実に取り組んでいます。また、法令の遵守、公正な情報開示など企業規模に見合った社会的責任を果たします。その上で、改革や創意工夫を通じて企業価値を高め、ステークホルダーであるお客様、地域社会の皆様、加盟店様、お取引先様、社員など当社に関係する全ての人・組織に対して価値を提供し続ける企業でありたいと考えています。

経営ビジョン

いちばんの満足をおあなたに

いつも期待以上の満足がある。いちばんの元気を、いちばんのきれいを、いちばんの便利を、いちばんのおいしさを。地域一人ひとりのお客様にとって、いちばんの満足を提供できるお店になれるよう、取り組んでまいります。

行動指針【私たちの基本原則】

1 お客様へ

私たちは、お客様に支持をいただくため、法令を遵守し、企業倫理や社会道德の正義の精神を尊重するとともに、お客様に喜ばれる商品・サービスを、安全で安心な品質を最優先に提供いたします。

2 加盟店様へ

私たちは、公平で公正な経営指導を行い、加盟店様の利益の確保に努め、相互の信頼関係を築き、共存共栄を図ります。

3 お取引先様へ

私たちは、関連する法令等を遵守するとともに、常に対等なパートナーシップのもと、公平で公正な取引により、堅固な信頼関係を築き、相互の繁栄をめざします。

4 地域社会の皆様へ

私たちは、社会貢献や環境保全への取り組みを自主的かつ積極的に取り組むとともに、地域社会の発展のため、市民の一員として行動します。

5 私たちとして

私たちは、皆様の声を広く取り入れ、企業活動の最適化を継続的に行うとともに、企業情報を積極的かつ公正に開示し、社会に信頼される企業をめざします。

会社概要

サークルKサンクス
社会環境報告書 2016

2

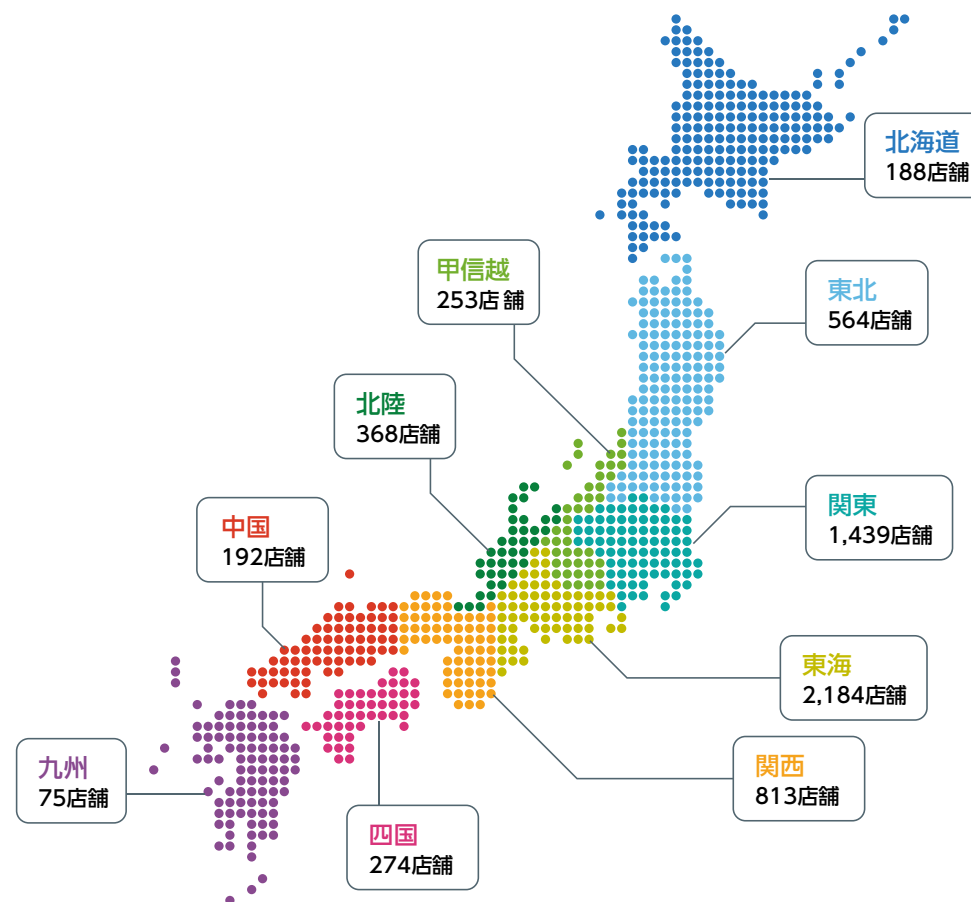
サークルKサンクス会社概要

社 名	株式会社サークルKサンクス
本 部 所 在 地	東京都中央区晴海2-5-24 晴海センタービル4階・5階 TEL:03-6220-9000 (代表)
本 店 所 在 地	愛知県稲沢市天池五反田町1番地
代 表 者	代表取締役社長 竹内 修一
設 立	2001年7月2日 ※1984年1月26日設立のサークルケイ・ジャパン株式会社(2001年7月1日商号を株式会社シーアンドエスに変更し、完全持株会社となる)より、会社分割手続きによって事業会社を新たに設立した日。
資 本 金	83億8,040万円
主 要 株 主	ユニーグループ・ホールディングス株式会社
事 業 内 容	コンビニエンスストア「サークルK」「サンクス」のフランチャイズ事業及び店舗経営など
従 業 員 数	1,797人 ※2016年2月末現在
チェーン店舗数	サークルK 3,747店舗
	サンクス 2,603店舗
	計 6,350店舗 ※2016年2月末現在、エリアフランチャイザー含む

※2016年9月1日をもって、株式会社ファミリーマートと経営統合いたします。



店舗展開



※2016年2月末現在

編集方針・目次

サークルKサンクス
社会環境報告書 2016

3



基本方針

サークルKサンクスの社会・環境への取り組みを皆様にわかりやすくお伝えするため、報告項目をサークルKサンクスに関わるステークホルダーごとに分類し、詳しく紹介しています。報告ページでは、多くの方が見やすいよう、ユニバーサルデザインフォントを採用し、配色や図表にも配慮しました。

UD FONT

ユニバーサルデザイン (UD) の考え方に基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

●発行

2016年8月

●対象範囲

サークルKサンクス本部及び店舗の事業活動、並びにお取引先様にご協力いただいている商品、物流、建設などの取り組みを中心に作成しています。

●対象期間

2015年度 (2015年3月1日～ 2016年2月29日)。また、2016年3月度以降についても重要事項と思われる内容は併せて記載しています。組織・役職名は2016年3月1日現在のものを記載しています。

Contents 目次

経営理念・経営ビジョン・行動指針	1
会社概要	2
編集方針・目次	3
トップメッセージ	4

コーポレート・ガバナンス

ステークホルダーの皆様とともに	5
コーポレート・ガバナンス	6

お客様のために

商品の安全・安心への取り組み	7
お客様の利便性向上をめざして	8

地域社会とともに

地域と連携した取り組み	9～11
-------------	------

お取引先様や加盟店とともに

パートナーシップで実現する 「お客様満足」の向上	12
-----------------------------	----

社員に向けて

働きがいのある職場づくりのために	13
------------------	----

地球環境のために

環境マネジメントシステム	14
循環型社会への取り組み	15
低炭素社会への取り組み	16・17
環境影響と負荷低減への取り組み	18
環境活動の実績	19
2015年度の環境成果	20

トップメッセージ



株式会社サークルKサンクス
代表取締役社長 竹内 修一

～いちばんの満足をおあなたに～ 本業を通じ、地域社会の課題解決に取り組めます。

国内のコンビニエンスストアは全店売上高10兆円、店舗数5万5,000店を超え、社会インフラとしてその存在感はますます増えています。そのような状況下において、当社は経営ビジョン「いちばんの満足をおあなたに」のもと、地域一人ひとりのお客様に満足していただける店づくりに取り組んでいます。

コンビニエンスストアは「便利さ」を追求していくことで進化を遂げてきました。この「便利さ」は時代によって大きく変化しており、当社としては、「今の時代の便利さとは何か?」を常に考える姿勢をもって、この1年間さまざまな取り組みを進めてきました。高齢化と女性の社会進出が進む今、昔のように広い商圈・男性のお客様を対象にした商売では通用しません。小さな商圈の中で、今までご来店いただけなかったお客様にもっとお店をご利用いただくため、便利を追求していくことが、地域の皆様への買い物支援や地域貢献につながっていきます。徒歩200m圏内で、生活するうえで必要なものが安く買え

る、あるいは価値の高いものが手に入る。またカーシェアリングやサイクルシェアリングをはじめとするインフラを活用した地域貢献サービスがある。こうした小商圈化への対応によって進化したお店は、一人ひとりの「マイコンビニ」として、どれだけ地域に愛していただけるかを問う当社のチャレンジでもあります。

そのような中、我々ユニーグループは2016年9月1日をもって、株式会社ファミリーマートと経営統合することと致しました。これにより、コンビニエンスストア「サークルK」「サンクス」は統合後2年半のうちに「ファミリーマート」にブランド転換し、業界最大規模の店舗網が形成されます。ブランド一本化に伴う規模の拡大により、あらゆる面で質の向上を加速させることが可能となります。商品の品質向上や新しいサービスの提供はもちろんのこと、すでにチェーンの垣根を越えて取り組んでいる認知症サポーター養成講座の受講推進など、「小商圈における社会インフラ」として重要な役割を果たして

まいります。

一方で、規模の拡大に伴い、廃棄物の増加やエネルギーの消費拡大などといった負の側面にも、より注意深く向き合わなければなりません。廃棄物の適正な分別やリサイクル、省エネといった当たり前のことに対し、工夫をしながら地道に取り組んでいくことが必要です。それにより、環境負荷をいかに抑えつつ、より良い商品・サービスを提供できるかという課題に対応し、企業としての責任を果たしてまいります。

経営統合により、店舗のブランドはファミリーマートに統一されますが、我々のつくり上げていくべきお店は変わりません。今まで以上に地域のお客様に必要とされるお店をめざし、本業を通じて地域社会の課題解決に取り組むことで、「コンビニの社会的な役割」を果たしてまいります。本報告書を通して、当社の取り組みをより身近に感じていただくことができれば嬉しく思います。

ステークホルダーの皆様とともに



ステークホルダーマップ

サークルKサンクスは、加盟店と本部の両輪体制によりステークホルダーの皆様とつながっています。
また、全ての人に関わる地球環境もステークホルダーの一部として考え、環境保全に取り組むとともに、社会のニーズに応える企業へと成長していきます。

地域社会とともに P9

地域社会の発展のため、社会貢献につながる取り組みを積極的に展開し、市民の一員として行動します。



CircleK Sunkus



加盟店



本部

フランチャイズ契約

- 店舗の営業
- お客様へ対面でサービスを提供
- お客様のニーズを直接つかむ

- 商品・システムの開発、物流管理
- チェーン全体の広告宣伝、価値向上の取り組み

加盟店と本部は共創共栄を図るパートナーです。それぞれの役割を担いながら、理念とビジョンを共有・実現することで、社会・環境に貢献し、お客様に信頼される店舗をめざします。

お取引先様や加盟店とともに P12

対等なパートナーシップのもと、お取引先様とゆるぎない信頼・協力関係を築き、相互の繁栄をめざします。



お客様のために P7

お客様の声をさまざまなかたちで取り入れながら、便利で安全な商品・サービスを提供していきます。



社員に向けて P13

多様な人材育成制度の実施や、働きやすい職場に向けた取り組みを行い、従業員一人ひとりが能力を発揮できる環境づくりを進めています。



地球環境のために P14

美しい地球を次世代へと受け継いでいくために、循環型社会・低炭素社会の実現に向け、さまざまな環境保全活動を推進しています。



コーポレート・ガバナンス

※サークルKサンクスでは、コーポレート・ガバナンスにおいて、確実に守ることを表現するために「遵守」、仕組みがあるということではなく、仕組みが正しく機能している状況表現するために「態勢」という文字で表記しています。

コーポレート・ガバナンスの基本方針

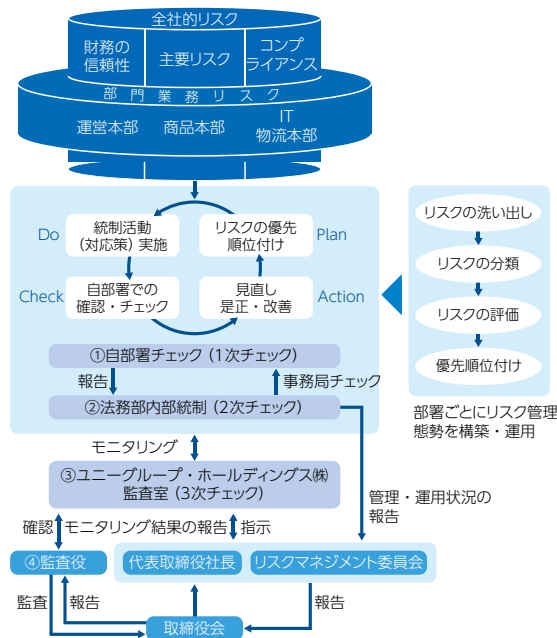
サークルKサンクスは、お客様、加盟店、お取引先様、地域社会、従業員などサークルKサンクスを取り巻く全ての人・組織をいづれも重要なステークホルダーと位置づけています。積極的な情報開示により各ステークホルダーとの良好な関係を築くとともに、あらゆる企業活動において法令を遵守し、コンプライアンス・リスク管理体制を含めた透明性の高い内部統制システムを整備・確立していきます。これを通じてコーポレート・ガバナンスの充実を図り、企業価値のさらなる向上に努めています。

リスクマネジメント態勢※

サークルKサンクスは、事業活動に関するさまざまなリスクに的確に対応するため、リスクを定義・分類し、それぞれのリスクごとに所管する部を定めています。当該所管部において継続的にリスクを監視するとともに、未然防止および発生時の最小化に向け、リスクマネジメント態勢を強化しています。

リスクマネジメント態勢とは、組織全体の目標達成に向けた貢献を阻害するリスクの把握を行い、改善策を講じることです。サークルKサンクスではその基準となる「リスク管理規程」を策定し、「リスク管理規程」に基づいて全社リスクと部門業務リスクのマネジメントの効率化および最適化を継続的に見直しながら、事業目標を実現するための業務改善活動を行っています。

■リスクマネジメント態勢図



コンプライアンス態勢※

サークルKサンクスでは、業務の中でコンプライアンスを実践していくために、職場環境の整備や従業員の教育を推進しています。

サークルKサンクスのコンプライアンスに対する考え方は、法令遵守はもちろんのこと社内規程の遵守、関係官庁の指導や企業倫理、社会道徳に照らし、ステークホルダーより支持を得られる判断と行動を選択するものです。そのため、従業員のコンプライアンスに関する教育を実施しています。

1.

入社時社内研修時に
「ESコール」窓口の案内

2.

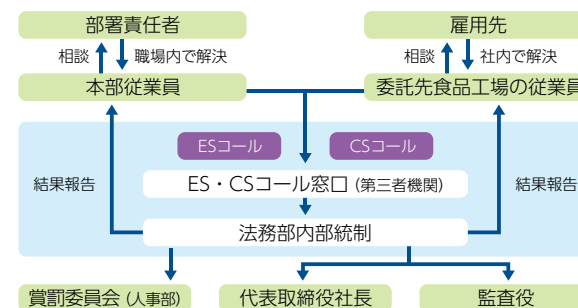
部署内
コンプライアンス教育の実施

3.

『コンプライアンス
ケースブック』の発行

2006年4月「公益通報者保護法」に対応して、法律、企業倫理違反や社会道徳の欠如に対する社内通報制度として「社内通報規程」を整備するとともに、社内通報窓口「ESコール」を設置し運用しています。また、サークルKサンクスの委託先食品工場には「CSコール」窓口の案内ステッカーを掲示、食品の安全と安心についての情報を得られるように監視しています。これらによって、通報者の保護と組織の職場環境の最適化に努めています。

■「ES・CSコール」フロー



■ESコールとは

社内で法令、行動指針、規程違反および倫理、道徳に対する判断ミスや職場環境の悪化が顕在化した場合に連絡する窓口。伝達機能や判断ミスの機能改善を図っています。

■CSコールとは

サークルKサンクスのオリジナル商品を製造している工場より、食品の「安全」「安心」に関する情報を収集する窓口。

商品の安全・安心への取り組み

食材品質のチェック

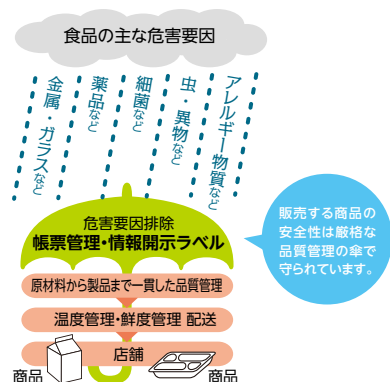
サークルKサンクスでは、食品の安全性向上のために、商品開発時に使用する食材の安全性を一つひとつ確認しています。使用する食材は原料メーカーの規格書をもとに厳格なチェックを実施（2015年度は約2,900種類）。商品化の際は安全が確認された食材のみを使用するよう徹底しています。今後も引き続き、食材の厳格な品質管理を全ての専用工場で実施し、食の安全・安心を守ります。

原材料から製品までの一貫した品質管理

サークルKサンクスの全ての専用工場では、原材料の産地や洗浄・カット・調理などの各工程の時間・温度を管理し、さまざまな食材の危害要因から食品を守っています。

厳重な管理下で製造された商品は、工場から出荷された後も、店舗までの配送、店舗での陳列・販売の一連の流れの中で常に最適な温度で保たれ、安全性が確保されています。さらに、でき上がった商品は全て金属探知機を通し、誤って金属が混入していないかチェックされます。

品質と安全管理のイメージ



異物混入を防ぐ工場内の取り組み

食材を調理する専用工場内では、従業員の清潔を保ち、異物などが混入しないように細心の注意を払うことで、安全・安心な商品をつくっています。また設備機器は定期的に洗浄され、チェックを受けています。

さらに米飯・調理パン・惣菜・調理麺については、毎年項目が更新されるチェック表に沿って、厳密な調査を実施しています。

保存料・合成着色料の排除

食の安全・安心を追求するために、2005年10月よりオリジナル商品のお弁当・おにぎり・サンドイッチ・惣菜・調理麺には「保存料」「合成着色料」を一切使用していません。

ラベルでの商品情報表示

お客様に安心してご購入いただけるよう、それぞれの商品ラベルには、商品名やバーコードのほかに、消費者の皆様にお知らせすべき情報をわかりやすく記載しています。また、お弁当・惣菜などの商品のラベルには、「食品衛生法」「JAS法」「健康増進法」「景品表示法」といったさまざまな法律に準拠した、「栄養成分」「原材料」「アレルギー」「容器の材質識別」「食品添加物」を表示しています。特に、アレルギーは「義務表示7品目」及び「任意表示20品目」を漏れなく記載しています。また、2015年に施行された食品表示法に対応する準備を進めています。

栄養成分

1包装あたりの熱量・蛋白質・脂質・炭水化物・ナトリウムの量を表示。

原材料

商品に使用されている原材料を重量の割合が大きい順に表示。

食品添加物

食品衛生法の規定に基づく使用添加物を表示。

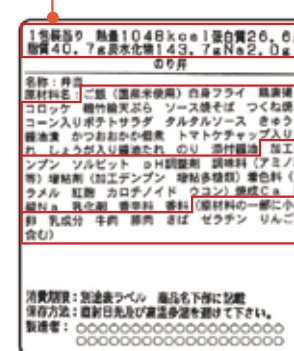
アレルギー

食品衛生法に定められた「義務表示の食品」7品目と「任意表示の食品」20品目を表示。



容器の材質識別

お客様の分別を容易にして容器包装のリサイクルを進めるための材質識別表示。



お客様の利便性向上をめざして

カーシェアリング・サービス

トヨタ自動車株式会社が実証運用する超小型電気自動車「COMS (コムス)」を使ったシェアリングサービス「Ha:mo RIDE (ハーモライド)」に協力し、2015年6月より愛知県豊田市内の6店舗の敷地内駐車場に、車両ステーション(専用駐車場)をオープン。現在では8店舗で展開しています。また、愛知県安城市内の12店舗には、同じく「COMS」を使った「き〜☆モビ」のステーションを展開しています。これらは、近距離移動ニーズに対応したモビリティ・シェアリングで、分単位の短時間利用ができるため経済的なうえ、省スペース・省エネルギーにより地域環境にも配慮し、利便性向上とCO2排出量削減が図れるサービスです。

また、2015年7月からは、カーシェアリングサービス「タイムズカープラス」のステーションを設置し、全国34店舗で展開しています。さらに、2016年8月からは展開エリアを拡大し、北海道から九州までの合計55店舗でサービスを提供してまいります。



ハーモライド (サークルK 豊田浄水町原山店)



タイムズカープラス (サンクス練馬豊中通り店)

サイクルシェアリング・サービス

店舗で手軽に便利に自転車をシェアするサービスとして、2016年6月、東京都内3店舗にドコモ・バイクシェア*のサイクルポートを設置しました。コンビニエンスストアが日常生活に欠かすことのできない社会インフラとしての機能拡大を期待されている中、サイクルシェアリング・サービスの提供を通じて地域のお客様の利便性向上を図ります。また同時に、温室効果ガス排出量削減など環境保全意識の高まりや健康志向にも対応していきます。

※ドコモ・バイクシェア：東京都内(千代田区・中央区・港区・江東区)をはじめ、横浜市・仙台市など全国8市区域でサイクルシェアリング・サービスを運営しています。



サイクルシェアリング・サービス (サンクス堀留町二丁目店)



サイクルシェアリング・サービス (サンクス西麻布霞町店)

京都市バスの駅

京都市交通局の「バスの駅」設置事業に賛同し、バスの利用者と来店のお客様双方の利便性向上を図るため、京都市内の10店舗に「バスの駅」を設置しています。屋根やベンチの設置が困難なバス停や、狭い歩道にあるバス停付近のサークルKの店内に、バス接近表示器を設置。バス到着までお買い物を楽しんだり、イートインコーナーでコーヒーなどを飲んだりしながら、バスの待ち時間を快適にお過ごしいただけるよう取り組んでいます。



バスの駅ロゴマーク



店頭ベンチ
(サークルK 東山清水坂店)



店内イートインコーナー (サークルK 西京極店)



店内のバス接近表示器と時刻表
(サークルK 西京極店)

地域と連携した取り組み

自治体との包括協定を締結

「コンビニエンスストアは地域社会の重要なライフラインの1つである」という考えのもと、地産地消や子育て・高齢者支援、観光振興、環境活動などの多項目にわたる包括協定を各自治体と締結し、連携を図っています。2016年2月末現在、25道府県1市と包括協定を締結しています。

包括協定を結んでいる地域一覧

	自治体
2008年	石川県、岐阜県、青森県、埼玉県、三重県、千葉県、長野県
2009年	神奈川県、北海道、静岡県、愛媛県、秋田県、愛知県、岩手県、岡山県、宮城県、高知県、新潟県、名古屋市
2010年	大阪府、山形県、奈良県、香川県、兵庫県
2011年	京都府
2012年	富山県

※2016年2月末現在

大規模災害への対策

サークルKサンクスでは、大規模災害に向けた対策を強化しています。今後も加盟店と本部が連携し、災害時に迅速かつ適切な対応をとれるよう、防災の意識向上に努めます。

警報勧告システムの導入

サークルKサンクスでは、「警報勧告システム」を各店舗に導入しています。これは、大津波警報や土砂災害警戒情報、大雨・洪水・暴風などの各種警報の発令を店内のお客様や従業員にお知らせするシステムです。警報発令時には該当する地域の店舗において、店頭レジのお客様側・従業員側の両画面に警報情報を表示し、大津波警報と土砂災害警戒情報については、警告音・音声案内での通知も行います。このシステムを活用し、各種災害発生時に警告情報をお客様や店舗従業員に周知することで、速やかな避難行動を促します。

警報勧告システム
(お客様側表示画面)

総合災害訓練の実施

2012年度より、毎年3月と9月を「防災月間」と定め、加盟店において防災訓練を実施しています。また2016年5月には、スーパーバイザーによる「店舗被害チェックリスト」を使った店舗の被害状況確認訓練を行いました。

さらに本部では、携帯電話を利用した専用応答システムによる全従業員の安否確認テストを実施したほか、事務所ごとにハザードチェック表の作成や防災備品などの確認を行いました。今後も定期的に災害訓練を実施し、防災意識の向上を図っていきます。

「認知症サポーターキャラバン」に賛同

厚生労働省の「認知症サポーターキャラバン」に賛同し、一人ひとりが認知症に関する正しい知識をもって対応できるよう、「認知症サポーター養成講座」の受講を進めています。2010年4月からは本部社員だけでなく加盟店も受講できる体制を整え、2016年2月末までに、2,307名の加盟店オーナー・スタッフや本部社員が受講しました。高齢者のお客様にも安心してご利用いただけるコンビニエンスストアをめざして、これからも活動に取り組んでいきます。



認知症サポーターキャラバンのマーク

「セーフティステーション活動」への参加

コンビニエンスストアの社会的責任として、「安全・安心なまちづくり」並びに「青少年環境の健全化」をめざし、一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会の「コンビニエンスストア・セーフティステーション活動」に、全国の店舗で取り組んでいます。2015年度は、のべ1,678店舗において、駆け込み対応を行いました。

また、未成年者への酒類・タバコ販売禁止のためのお声がけや成人雑誌の陳列配慮、たまり場化防止などの取り組みも積極的に実施しています。



セーフティステーション活動宣言ポスター

地域と連携した取り組み



店頭募金を実施

全店舗に募金箱を設置し、お客様が身近な場所で気軽にできる社会貢献活動のお手伝いをしています。またこれに加えて、2015年4月には「ネパール地震救援金募金」、同9月には「台風18号による大雨災害義援金募金」、2016年4月には「熊本地震災害義援金」を実施しました。

〈2015年度の店頭募金〉

✿「全国盲導犬普及キャンペーン」(寄託先：認定NPO法人全国盲導犬施設連合会)

全国盲導犬施設連合会には、国家公安委員会から指定を受けて活動している8つの盲導犬育成施設が加盟しています。各施設が綿密な連携を図り、盲導犬の育成・普及事業の発展を図ることで視覚障害者の自立、社会参加の機会増大につながる活動を推進しており、寄付金はその活動に役立てられています。



✿「東北の子ども達に幸せな笑顔を贈ります」

海のキッズハウス提供(寄託先：特定非営利活動法人レスキューストックヤード)

東日本大震災の被災地である宮城県七ヶ浜町において、子ども達に学びの場「海のキッズハウス」を提供する資金に充てられます。同ハウス建設後には東北3県の子ども達を招待し、さまざまなイベントを開催予定です。



海のキッズハウス贈呈式

✿「東北の子ども達に幸せな笑顔を贈ります」

東北レインボーハウス活動支援(寄託先：あしなが育英会)

東日本大震災・津波で親を失った子どもたちのケアを本格的に取り組むための施設「東北レインボーハウス」(仙台市・石巻市・陸前高田市)の運営資金に充てられます。



■2015年度の募金結果

募金	実施期間	募金額
全国盲導犬育成募金 (認定NPO法人全国盲導犬施設連合会)	2015年4月1日～7月31日	¥22,937,867
東北復興支援募金 (特定非営利活動法人レスキューストックヤード)	2015年8月1日～11月30日	¥17,172,746
東北復興支援募金 (あしなが育英会)	2015年12月1日～2016年3月31日	¥19,823,451
総額		¥59,934,064

〈緊急支援募金〉

■2015年度の募金結果

募金	実施期間	募金額
ネパール地震救援金募金 (日本赤十字社)	2015年4月29日～5月17日	¥31,102,199
台風18号による大雨災害義援金募金 (日本赤十字社)	2015年9月12日～9月27日	¥27,249,599
総額		¥58,351,798

※ユニグループ計の金額

■2016年度の募金結果

募金	実施期間	募金額
熊本地震災害義援金 (日本赤十字社)	2016年4月15日～5月15日	¥133,184,894

※ユニグループ計の金額



被災した子ども達の進学支援

サークルKサンクスは、グループ会社のユニ株式会社(以下「ユニ」)と共同で、2012年3月より「公益財団法人みちのく未来基金」への寄付を行っています。この組織は、東日本大震災で親を亡くした子ども達が将来の夢をあきらめず進学できるように設立された奨学基金です。サークルKサンクスとユニは、2021年まで寄付を継続し、10年間にわたり被災地の子どもの進学を支援していきます。



みちのく未来基金

地域と連携した取り組み

NPO団体への支援

人道支援を目的に、企業活動から得られる利益の一部を寄付する事で、団体の活動を支援しています。

ファミリーハウス

小児がんなど難病と闘う子ども達とその家族のために、宿泊施設を提供し、経済的・精神的負担を軽減する活動を展開する施設です。サークルKサンクスでは、2002年度より運営資金や食品など物資の提供による支援を実施しています。



JHP・学校をつくる会

カンボジアを中心に学校の建設や修復、教育支援などを行う国際協力NGOです。サークルKサンクスでは、2002年度にカンボジアでの学校建設支援を始めて以来、2015年度までに13の小中学校で合計22棟の校舎を建設。また、当社役員の現地訪問による生徒とのふれあいや、労働組合によるブランコ等の遊具設置など、校舎建設のほかにもカンボジアの子ども達が夢や希望をもてるよう、さまざまな活動を行っています。支援により建設された小中学校では、2016年2月現在、約9,000人の生徒が学習しています。



広島経済大学興動館「カンボジア国際交流プロジェクト」

カンボジアへの教育支援として、学校建設といったハード面の支援に加え、2016年2月には広島経済大学興動館「カンボジア国際交流プロジェクト」にソフト面（教材となる「低学年用副読本」の作成資金）の支援を実施しました。同プロジェクトは、これまでの当社の建設支援校も含め、学生たちが授業や教材配布といった教育支援を行っています。



東北復興応援ツアーを開催

サークルKサンクスでは、JA全農みやぎと共同で、小学生親子を対象とした「親子で稲刈り体験&行こうよ!みやぎ観光地ツアー」を2015年10月3日・4日の2日間にわたり開催し、20組40名の親子を無料で招待しました。

また、2016年5月14日・15日には、20組40名の親子を無料招待した「親子で田植え体験&行こうよ!みやぎ観光地ツアー」を開催。これらのツアーは、親子で楽しく農業を体験し、食育を学んでいただくとともに、宮城県内を観光して東北地方の復興に貢献することを目的としています。参加した小学生へのアンケートでは、「体が痛くなったけれど貴重な体験ができた」「田んぼに入れた足が気持ち良かった」などといった稲刈り体験および田植え体験の感想のほか、東北の方々への応援メッセージが多数寄せられました。



クリーンアップキャンペーン活動

春と秋の年2回、「クリーンアップキャンペーン」を全国で展開しています。このキャンペーンは、従業員の環境に対する意識向上と環境活動への理解、地域社会の一員として地域貢献に取り組むことを目的としたボランティアの清掃活動です。2015年度の開催回数は延べ129回（エリア会社含む）で、3,042名の参加がありました。

また、同キャンペーンはユニーグループ各社で実施しており、子どもの通学路や公園などの清掃により、子どものための環境整備にも取り組んでいます。



パートナーシップで実現する「お客様満足」の向上

お取引先様とのパートナーシップ体制

サークルKサンクスが、「新しいコンビニエンスストアづくり」を推進し、お客様満足の向上を実現していくためには、お取引先様のご協力も欠かすことができません。商品やサービスの提供はもとより、お客様のニーズを満たす売場を実現するためのマーケティングも、お取引先様とのパートナーシップにより実現しています。

信頼関係を維持するための「私の行動基準」

お取引先様をはじめとするステークホルダーの皆様と、常に透明性が高く信頼に基づいた関係であり続けるために、社員一人ひとりの「私たちの基本原則」「私の行動基準」を定めています。

■「私の行動基準」の中のお取引先様に対する行動基準

1. 私は公平で公正な取引を厳守します。
2. 私は最適な品質及び価格を追求します。
3. 私は取引上のトラブルは誠意と責任を持って解決します。
4. 私は私的な利益供与を受け取りません。

ユニーグループ会

サークルKサンクスも含めたユニーグループでは、グループ各社とのお取引先様により構成されるユニーグループ会を設けています。2016年4月には、会員会社651社1,331名様のご出席により定期総会が開催されました。

なお2016年9月の経営統合に伴いユニーグループ会は本定時総会をもって解散となり、次年度以降は新ホールディングスのもと新たな会が発足される予定です。



ユニーグループ会

フランチャイズシステムによる共創共栄

加盟店と本部は共創共栄を図るため、フランチャイズ契約による役割分担を行っています。投資を伴うシステム構築や商品開発・物流管理・会計代行などについては本部が実施。加盟店はこれらのフランチャイズシステムを活用して店舗を運営し、商品やスタッフ、売上や経費の管理を実施しています。加盟店と本部がそれぞれの役割をしっかりと果たすことで、お客様にご満足いただける店舗が実現され、相互の事業発展につながります。

店舗スタッフの育成をバックアップ

本部では加盟店に対し、「グローイングアッププログラム」というキャリアパスを中心とした教育と評価の仕組みを提案しています。また、店舗内におけるスタッフ教育を推進するために、「トレーナー研修」やオペレーションの理解度・習熟度を測る「認定サブマネージャー検定」なども実施し、加盟店への支援を行っています。2015年度はトレーナー研修を1,812名が受講、「認定サブマネージャー」には新たに434名が認定されました。

このように加盟店のスタッフ育成を支援することで、サークルKサンクス全体の「お客様満足」の向上につながっています。



研修の様子



認定サブマネージャーバッジ

働きがいのある職場づくりのために



人材育成の実施

個人の多様性に対応しながら組織の生産性を高めるために、人材の育成は不可欠です。本部社員には、フランチャイズチェーン本部の社員として必要な知識・技術の習得や、個人のキャリアを向上させるための機会を提供。①階層別教育、②目的別教育、③部門別教育、④自己啓発支援などの教育体系に加え、加盟店と本部のパイプ役を務めるスーパーバイザーには、常に最新の情報や店舗経営のノウハウを共有できる機会を設けています。



従業員の健康を保つための取り組み

従業員が心身共に健康に過ごせるよう、定期健診やがん検診に加え、メンタルヘルスクケアにも力を注いでいます。健康診断では、2004年からメタボリックシンドロームの判定を行い、啓発セミナーや保健指導を実施。法令化後は、健康保険組合と協働で対象者全員に保健指導を行ってきました。また、10年以上前から職業性ストレス簡易調査票に基づくストレスチェックを実施し、個々のストレスへの気づきをうながしながら、組織と職場環境改善のために活用してきました。2015年度は、全社的に心と体の健康づくりの方針を「トータルヘルスな会社の実現」とし、社内に専用ポータルサイトを立ち上げ、産業医による動画や心と体の健康に関する啓発コンテンツを配信。各地区事務所で毎月行っている安全衛生委員会内で活用しています。従業員個々への対策としては、社内フリーダイヤルを設け産業カウンセラーの資格を持つ社員が相談を受けるなど、休業者の職場復帰の支援をしています。本社と全国8事務所では産業医と健康相談や面談ができる体制を整えており、同時に、長時間労働者への産業医面談も実施しています。

人事データ ※注釈のないものは2016年3月1日時点

社員数	1,838人 (男性1,718人、女性120人)
管理職者数	328人 (男性320人、女性8人)
平均年齢	42.4歳
平均勤続年数	15.6年
地域社員数	140人
定年退職者の再雇用数	17名中16名 ※2015年度の1年間
離職者数(率)	56人 (3.05%) ※2015年度の1年間退職人数÷2016年2月末人員数
障害者雇用人数(率)	28人 (1.49%) ※2016年6月1日時点
採用者数	35人 ※2016年4月1日入社
育児休業取得人数	社員8人/サン社員1人/パートタイマー 11人 ※2015年度実績
介護休業取得人数	社員0人/サン社員0人/パートタイマー 0人 ※2015年度実績
有給休暇取得率	12.40% ※2015年度実績
健康診断受診率	100% ※2015年度実績
労働災害発生件数	26件 ※2015年度実績



従業員の士気を高める取り組み

サークルKサンクスでは、年度内に優れた成果を上げた社員などを表彰する「優秀社員表彰制度」を設けており、2015年度には17名が優秀社員として表彰されました。優秀社員については新年度の方針発表会において社長による表彰を行い、表彰事例を社内で紹介しています。本制度は、数値実績に優れた者だけではなく、日頃の業務への取り組み姿勢などを通して周囲の社員に対しポジティブな影響を与えた者を表彰することで、従業員の士気向上につなげるとともに、優れた成果や成功事例を全社的に共有する機会となっています。



優秀社員表彰



ユニグループのダイバーシティ・マネジメントへの取り組み

ユニグループでは、2014年に立ち上げたダイバーシティ推進委員会を通じた活動により、女性・障がい者・高齢者・外国籍者の活用を推進して個々の個性や価値観を尊重するとともに、各々がもつ能力を発揮することで、グループ理念の実践、継続的な成長をめざします。また、ユニグループ各社の女性社員を中心に構成した小委員会を設置。現行の課題や問題点を整理・検討するなど、協議を進めています。これらの活動の結果、2015年度より正社員再雇用制度や女性人材育成研修といった取り組みを開始。さらにサークルKサンクスでは、2016年2月からの育児・介護関連制度の拡充、同4月の女性社員キャリア研修など、社員のライフイベント発生時も就業継続ができるよう、新たな取り組みを進めています。

環境マネジメントシステム

環境活動を推進する理念・方針

「私たち」を主語とし、環境に対する取り組みの基本的な考え方を環境理念・環境方針として制定しています。

●環境理念

私たちは、企業活動にともなって発生する環境負荷を可能な限り減少させ、大切な地球環境を守り、豊かな自然を次世代に引き継ぐよう行動します。

●環境方針

- ① 私たちは、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減及び分別に取り組み、資源の有効活用に努めます。
- ② 私たちは、地域社会の一員として、法律及び同意したその他の要求事項を順守し、汚染の予防と環境負荷の低減に努めます。
- ③ 私たちは、環境マネジメントシステムを活用し、年度毎の目的、目標を定めると共に、環境施策の継続的改善を実施します。
- ④ 私たちは、環境への取り組み、地域美化活動への参加、セーフティステーション活動などを通じ、地域貢献に努めます。また、取り組み内容を広く内外に公開し、その評価を継続的改善に生かします。

内部環境監査の実施と外部審査の報告

本部を10、地区事務所を23、エリア会社を2の単位にまとめ、単位ごとに目標を定めて環境活動を推進しました。内部環境監査も単位ごとに実施し、運用状況を確認。本部、地区事務所、エリア会社を担当する各進捗管理者や内部環境監査員に対しては、毎年度フォロー研修を実施しており、2015年度は合計8回74人が受講しています。

なお、2015年12月に実施されたISO14001更新審査では、地域のインフラとして京都バスの駅やカーシェアリングに店舗を活用している事例（P8参照）など、事業活動と一体となった環境活動が評価されました。



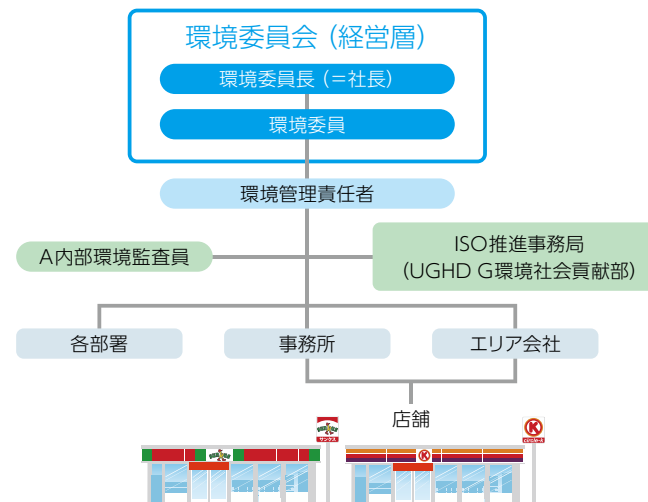
2015年度 ISO14001 更新審査

環境マネジメント推進体制

サークルKサンクスは、代表取締役社長を委員長とする環境委員会を年2回開催しています。必要に応じて臨時会議も開催し、環境マネジメントシステムの見直しとともに、コンビニエンスストアの社会的責任遂行の視点から挙がるさまざまな課題について報告・提案・審議を行っています。

また、ISO14001認証を取得し、年度ごとにPlan（計画）、Do（実施）、Check（確認）、Action（見直し）のPDCAサイクルを活用することで、取り組みの推進を図っています。

■環境マネジメント推進体制図



加盟店・従業員への継続的な環境教育

本部従業員向けに環境教育を月1回開催し、環境理念・環境方針の周知徹底及び日常業務との関わりを意識する機会を定期的に設けています。また、入社時研修やスーパーバイザー登用前研修など、業務に密接した内容の教育も実施しています。

店舗経営者に対しては、開業前研修時に、コンビニエンスストアに関連する法律を中心とする店舗業務に関わる内容に特化した教育を実施。開店後も、加盟店セミナー、広報誌、本部からの連絡などを通して継続的な教育を行っています。

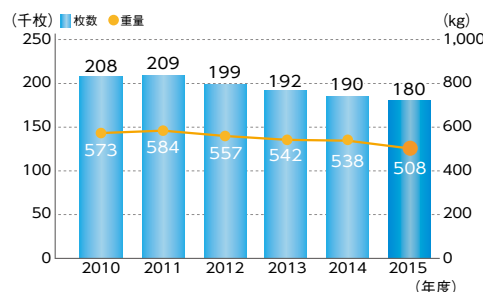
循環型社会への取り組み

お客様とともにレジ袋削減への取り組み

容器包装ごみを削減するため、レジ袋の削減に取り組んでいます。お客様へのお声かけや、ポスター掲示・店内放送での啓発を行うとともに、レジ袋自体の薄肉化やサイズ変更も実施した結果、2015年度には、2000年度の1店舗あたりのレジ袋使用量989kgに対して約49%のレジ袋削減（重量換算）を達成しました。今後もお客様のご協力のもと、レジ袋削減に向けた取り組みを推進していきます。



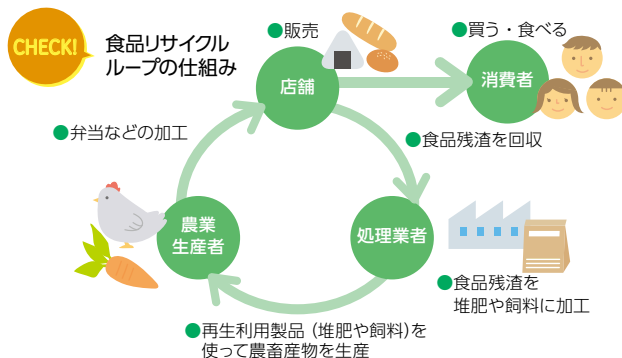
■1店舗あたりのレジ袋使用量推移



環境省認定の「再生利用事業計画」

サークルKサンクスでは、「食品リサイクル法」に基づき、食品循環資源の再生利用事業促進に取り組んでいます。

2008年には、ユニーグループとして愛知県経済農業協同組合連合会および株式会社D.I.Dとともに、環境省より「再生利用事業計画（食品リサイクルループ）」の認定を受け、活動の一環として収穫したニンジンの一部をお弁当に使用しました。2014年以降は、同様に活動の一環として収穫したお米をおにぎりやお弁当に使用し、中京地区の店舗で販売しています。



■2015年秋に販売したリサイクルループ商品



炙り鶏の照焼き弁当

食品リサイクルを積極的に推進

食品廃棄物の飼料・肥料へのリサイクルを積極的に推進するため、リサイクルに対応する廃棄物処理委託業者との取引を順次拡大しています。また、店舗のフライヤーから出る廃油についても飼料などにリサイクルすることで、店舗から発生した廃油は100%リサイクルしています。これらの取り組みの結果、2015年度は、発生抑制も含めた再生利用等実施率は46.0%、発生抑制を含まない単純な食品リサイクル率は32.1%となりました。今後も対応業者との取引拡大を進め、食品のリサイクルに努めていきます。

また、2012年4月より設定された食品廃棄物などの発生抑制の目標値「44.1kg/売上高百万円あたり」に対し、2015年度実績では「23.3kg/売上高百万円あたり」となっています。

■食品リサイクル実施率と店舗数の推移

	2007年(基準年)	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
食品リサイクル法目標数値	20%	22%	24%	26%	28%	30%	32%	34%	36%
食品リサイクル実績数値	—	28.1%	28.6%	49.5%	52.5%	47.7%	49.5%	44.2%	46.0%
食品リサイクル実施率	10.5%	12.5%	15.2%	19.1%	20.9%	23.8%	29.2%	31.2%	32.1%
食品リサイクル実施店舗数	677	784	861	867	947	1,029	1,199	1,239	1,226

A※発生抑制を含んだ数値、B※発生抑制を含まない純粋な食品リサイクル実施率と店舗数

■食品廃棄物などの発生抑制の目標値とその実績

業種区分	目標値 (食品廃棄物発生量)	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
コンビニエンスストア	44.1kg	17.6kg	20.2kg	21.0kg	23.9kg	23.3kg

※売上高百万円あたり

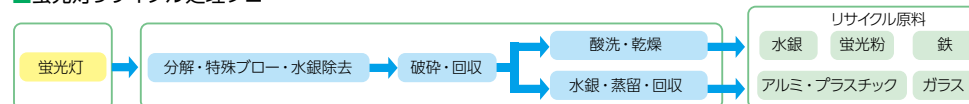
蛍光灯のリサイクル

店舗内外で使用した蛍光灯は、回収してリサイクルしています。2015年度は、394,594本の蛍光灯を回収しました。回収後は、ガラス、金属、水銀などに分別し、ガラス再生品などへ、100%のリサイクル率を実現しています。



蛍光灯処理機

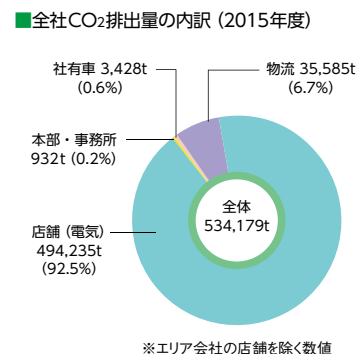
■蛍光灯リサイクル処理フロー



低炭素社会への取り組み

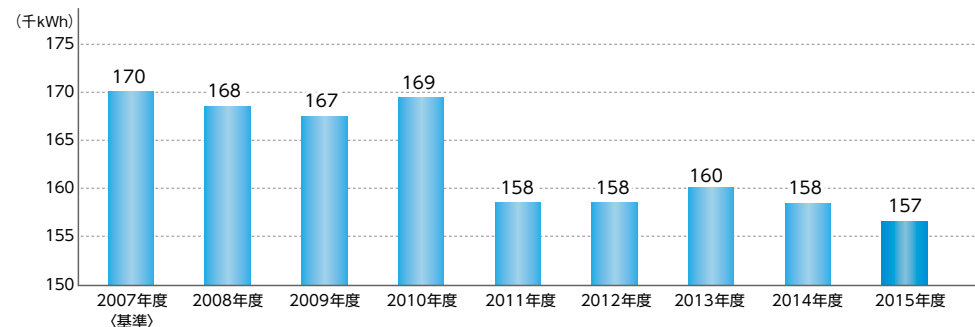
温室効果ガス削減に向けた取り組み

サークルKサンクスでは、温室効果ガス削減に取り組んでいます。右記のグラフのとおり、企業活動を通じて発生するCO₂の大部分が店舗での電気エネルギーの使用によるものであることから、店舗の設備仕様においても環境に配慮した地球にやさしい店舗づくりに努めています。2015年度の電気使用量は、新店舗における全照明LED化をはじめとした省エネ設備の導入や節電対策をさらに進めた結果、2015年度から0.69%の削減となりました。



※電気使用に伴うCO₂排出係数は、減少傾向であったことから毎年度固定の数値を使用していましたが、同係数の大幅な増加を受け、算出係数を電気事業連合会の年度ごとの係数と連動させました。

■ 1店舗あたり電気使用量推移



太陽光発電システムによる売電事業

2013年5月より、日照効率の高い店舗を約400店舗選定して「太陽光発電システム」を導入しています。太陽光発電による自給エネルギー確保に事業化で貢献するため、再生可能エネルギー固定買取制度を適用。発電した電力は全量売電し、売電収益は店舗が節電対策に取り組むための省エネ設備の投資などにつなげています。



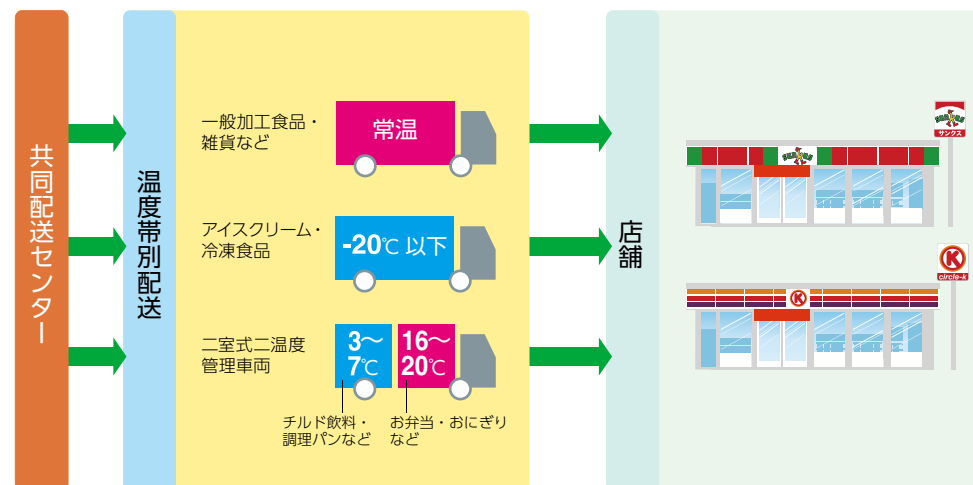
太陽光パネル
(サンクス福島下野寺店)

環境に配慮した商品配送

環境にやさしい商品の配送をめざし、1台の車両に温度帯の異なる二室を設けた「二室式二温度管理車両」での配送や、温度帯別の効率的な配送を行っているほか、サークルK、サンクスの両ブランドの商品を1台にまとめて積載しています。

また、常温商品の配送について適時適量物流の考え方による大幅な見直しを実施。その結果、2015年度の1店舗あたりの配送車両台数 (1日) は6.9台となり、削減が進んでいます。今後も商品配送の効率化により、環境負荷の低減に努めていきます。

■ 温度帯別共同配送の仕組み



低炭素社会への取り組み

物流センターの統合

サークルKサンクスでは、グループ会社のユニーと共同で物流の効率化を図っています。2013年10月より稼働している「ユニーグループマザーセンター」では、プライベートブランド商品「スタイルワン」「プライムワン」の物流拠点を確立しました。

また、全国10エリアにあるサークルKサンクスおよびユニーの物流センターのうち、2015年度には、近接する3エリア（関東・静岡・北陸）のセンターを統合しました。

これらにより、物流コストおよび物流に関わる環境負荷を低減しています。



ユニーグループ静岡物流センター

配送車両へのハイブリッド車の導入

大都市における車両の排気ガスを規制する自動車NOx・PM法などの遵守はもとより、法律対象外の地域でも排気ガスの少ないハイブリッド車を積極的に導入しています。

また、一部の車両では燃費が向上する省エネタイヤを採用しています。さらに、店舗に商品を毎日配送する全国の日配センターでは、所属する全ドライバーに対し、アイドリングストップや店舗納品時の騒音などについて、マニュアルに基づいた啓発活動を実施しています。半年に1度開催される物流センターの責任者会議では、啓発教育や環境問題の情報を共有しているほか、定期的な確認・啓発を行い、ドライバー教育にも力を注いでいます。

エコカーによる店舗巡回

スーパーバイザー店舗巡回に使用する社用車についても、ハイブリッド車などエコカーの導入を進めています。最終的には降雪地域を除いてすべての車両をハイブリッド車に入れ替える予定で、2015年度までに計678台のハイブリッド車を導入しています。また、愛知県を中心に、電気自動車用倍速充電器22台、電気自動車用急速充電器6台を設置。この充電スタンドは、一般のお客様にもご利用いただけるよう開放しており、店舗ロケーションを活用した充電スタンドなどインフラ整備への貢献をめざしています。



ハイブリッド車 アクア



倍速充電器

フロンの管理

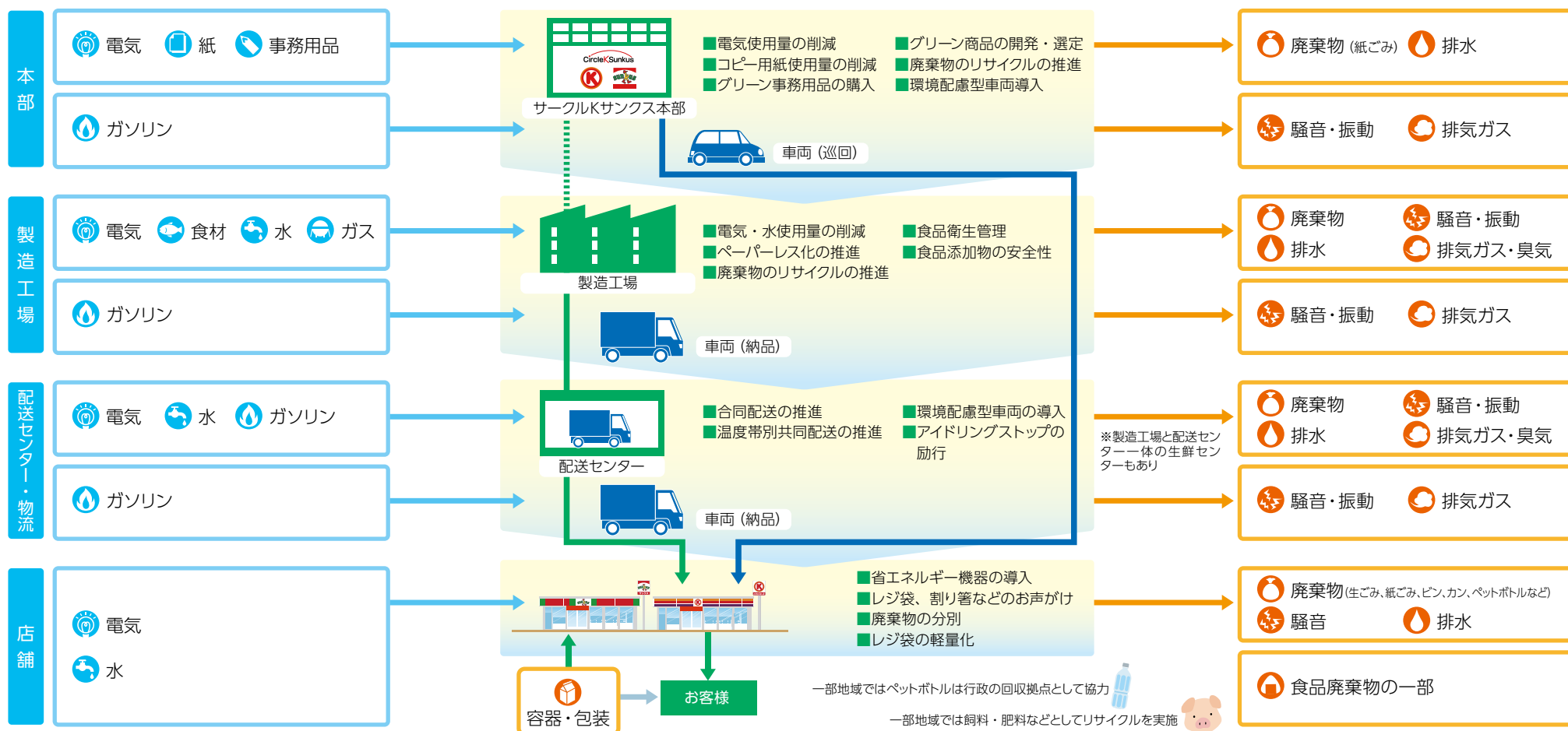
店舗で使用する冷蔵・冷凍・空調設備には、代替フロンを使用しています。サークルKサンクスでは、フロンの大気放出防止などの環境配慮として、2015年4月から施行された「フロン排出抑制法」に基づき、冷蔵・冷凍設備の点検や工程管理を実施しています。2015年度の店舗も含む全事業所におけるフロン類算定漏えい量は、20,379t-CO₂となりました。また、設備を廃棄する際のフロン回収業者への監査も年2回行い、管理の徹底に努めています。2015年度の回収量は8,042kg、うち4,908kgを破壊し、3,092kgを再利用、残りを一時保管しました。なお、一部の店舗では、代替フロンと比較して温暖化係数が非常に低いCO₂を冷媒とした最新機器を実験導入しています。

CO₂ 冷媒冷凍機

環境影響と負荷低減への取り組み

環境影響と負荷低減への取り組み

販売だけでなく、原材料の調達、製造、配送など、事業活動の全てにおける環境影響を把握し、お取引先様や加盟店とともに一致協力して環境負荷低減の活動を続けています。



環境活動の実績



環境活動の実績

サークルKサンクスでは、毎年、環境活動の取り組み目標を設定し、環境活動を積極的に展開しています。

2015年度の実績

評価の見方: ◎達成 ○継続実施 △未達成

項目	2015年度の環境目標達成状況		対象		評価
	目標・取り組み	結果並びに進捗状況	本部	店舗	
省エネルギー・CO ₂ 削減への取り組み	●新店の全照明LED化など省エネ設備の導入や、電気使用量データの収集・分析による省エネオペレーションの導入促進によりCO ₂ の削減を図る	●2015年度は前年度に対し電気使用量で△0.69%の削減実績 ●新店の全照明LED化など設備面と、空調の温度設定変更など店舗オペレーション面の両面での削減効果 ●新店300店で全照明LED化		✓	○
	●本部(本社・事務所)電気の適正使用 ●目標前年比98.5% (本社・事務所ごとに95.0%～99.0%の範囲内で目標設定)	●実績前年比 95.9% (本社 93.6%、事務所 97.6%)	✓		◎
	●社有車に環境配慮型車輛を導入	●前年度までに導入した503台に加え、計175台導入済み (ハイブリッド車合計678台)	✓		○
	●配送の効率化と環境配慮型車輛の推奨を継続 ※1店舗当たり配送車輛6.8台/1日の維持・継続	●実績 1店舗当たり6.9台/1日	✓		△
省資源への取り組み	●商品製造工程における環境配慮型原材料導入の推進	●弁当容器に関わる廃棄物削減として、外装のラップを外しテープ止めにしたラップレス包装で提供する商品を、常時展開 ●地産地消のMOTプロジェクトを、店舗のある全ての地域で展開	✓		○
	●レジ袋の適正使用	●レジ袋辞退率 30.9%		✓	◎
	●割り箸の適正使用	●割り箸の購入量実績 前年比81.4%		✓	◎
	●コピー用紙の適正使用	●実績前年比 95.1% (本社 103.9%、事務所 91.7%)	✓		△

項目	2015年度の環境目標達成状況		対象		評価
	目標・取り組み	結果並びに進捗状況	本部	店舗	
廃棄物の適正処理への取り組み	●商品製造過程における廃棄物の発生抑制、分別、食品リサイクルの推進	●食品製造ベンダーの食品廃棄物発生抑制、食品廃棄物の処理状況の確認を実施	✓		○
	●改装・閉店時の廃棄物の適正処理とリサイクルを推進	●解体業者の廃棄物処理状況と、転用可能な機器のリサイクル実施状況の確認を実施	✓		○
	●廃棄物の分別・適正処理とリサイクルを推進	●分別の徹底と契約書・許可証・フロー図を定期的に確認し、法令順守状況を把握	✓	✓	○
	●店舗の食品廃棄物リサイクルの推進 ※再生利用等実施率45%以上 ※発生抑制を含まない食品廃棄物リサイクル実施率 2014年度実績 (31.2%) +2%以上	●食品リサイクル法における発生抑制も含めた再生利用等実施率 46.0% ●発生抑制を含まない食品廃棄物リサイクル実施率 32.1%で前年 (31.2%) +2%は未達成 ※フライヤーの廃油については、100%リサイクルを実施		✓	△
	●店舗の食品廃棄物等発生抑制の推進	●食品小売業の目標数値「44.1kg/売上高百万円あたり」に対し、2015年度実績「23.3kg/売上高百万円あたり」		✓	◎
環境貢献活動の推進	●地域貢献活動の参加	●計25道府県1市と締結済み	✓	✓	○
	●クリーンアップキャンペーンの実施 目標参加者前年比100%以上	●120会場、3,042名参加、前年比 91.2%	✓	✓	△
環境への教育啓発活動	●食品リサイクル法の店舗への教育啓発活動を実施	●新たに食品リサイクル対応となった地域において、加盟店への食品リサイクルの説明と対応業者の案内を実施	✓		○
	●レジ袋削減に向けた店舗への教育啓発活動を実施	●加盟店への案内文書などにより、店舗に対しレジ袋削減の啓発活動を実施 ●お客様に対してもお声掛けやポスター、店内放送、レジ画面を活用し、啓発活動を実施	✓		○
	●車輛における環境負荷低減のためのアイドリングストップや省エネ運転を推進	●本部従業員に対して、全体教育を通して環境教育を実施 ●物流会議において、ハイブリッド車の導入促進活動実施	✓		○
	●本部従業員に対する環境教育を継続実施	●本部従業員に対して、全体教育を通して環境教育を実施	✓		○
	●社内報、加盟店広報誌、社会環境報告書、セミナーなどを通じ、環境への全般教育を継続実施	●社内報、加盟店広報誌、社会環境報告書、セミナーなどを通じ、本部従業員及び加盟店に対し、環境への全般教育を実施	✓	✓	○

2015年度の環境成果

2015年度の環境会計

サークルKサンクスでは、環境保全にかかった費用とその活動による効果を定量的に把握するため、「環境会計ガイドブック」を参考に環境会計を導入し、年度ごとの環境保全活動における収支を明らかにしています。

■環境保全コスト

(単位：千円)

分 類		取り組み内容	コスト	
			投資	費用
事業エリア内コスト	公害防止コスト	- 浄化槽点検・整備 - 室外機防音工事 - 駐車場遮音・遮光工事	82,539	38,550
	地球環境保全コスト	- 低公害車の導入 - 省エネ店舗照明システム導入 - 冷機省エネシステム - 店舗売場照明 LED工事、新店 省エネパック - 看板照明 LED工事、新店 省エネパック - 冷機照明 LED工事、新店 省エネパック - その他環境対策工事	384,362	632,039
	資源循環コスト	- 店頭分別ごみ箱の設置 - 廃棄物関連費用	30,329	2,259,963
事業エリア内コストの小計			497,230	2,930,552
上流・下流コスト		容器包装リサイクル法関連費用	0	168,882
管理活動コスト		- 環境マネジメントシステム関連 - 環境報告書関連	0	11,863
社会活動コスト		- クリーンアップキャンペーン（清掃活動） - 募金活動 - NPO団体への寄付	0	133,441
合 計			497,230	3,244,738

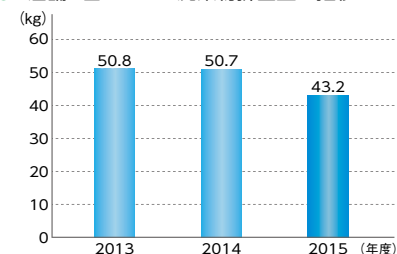
※環境会計ガイドブックを参考に算出

※対象期間：2015年3月1日～2016年2月29日

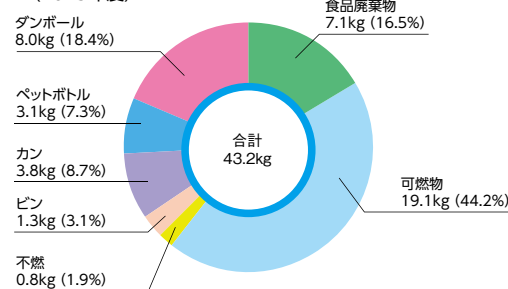
※加盟店及び本部の費用について、明確に把握できるもののみ記載

2015年度の省資源化の取り組み

●1店舗1日あたりの廃棄物排出量の推移



●1店舗1日あたりの廃棄物の排出量の内訳 (2015年度)



※データ抽出条件

●抽出期間／前年度（4月～3月）の平均月間排出量

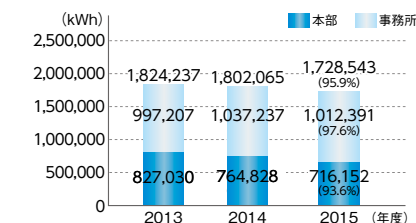
●対象店舗／管理会社経由で一般廃棄物委託処理契約を締結している店舗（エリア会社を含む）

●サンプル店舗数／2,039店舗

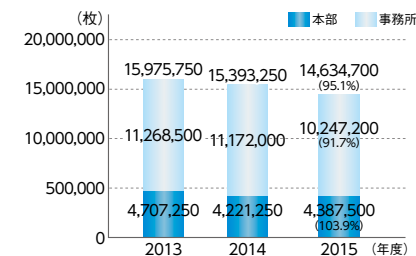
環境に関するご意見数

		2013年度	2014年度	2015年度
店舗環境	店内の異臭	54件	52件	55件
	店内外が汚い	187件	144件	140件
	たまり場（騒音）	181件	137件	107件
その他	配送者の運転マナー・態度が悪い	63件	71件	63件
	配送車の騒音・駐車場所	71件	82件	66件
合 計		556件	486件	431件

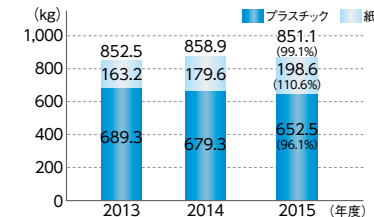
●全社電気使用量の推移



●全社コピー紙購入量の推移



●1店舗あたりの容器包装使用量の推移

※数値の下にある（ ）は、前年度比の値
(小数点以下第二位を四捨五入)